

# あいさつ運動の好事例

赤磐市立 山陽北小学校

(児童数529名 教職員数40名)

北小の元気なあいさつは、日本一！

～教員主導から、子どもの主体的な活動へ～

## アピールポイント

- 相手より自分が先に声を出す、つまり、「進んで」あいさつをする子どもを育てることを重視する。
- 生徒指導部の教員が全校に向けた取り組みを立案・実行し、評価をする形をとっていたが、子どもの主体性を育てるために高学年の子どもたち（委員会活動）がプロジェクトを立ち上げ、子どもたちの側からあいさつの輪を広めていくような形をとっている。

## 実際の様子



## 取組の概要

### ■ 児童の実態

明るく元気で素直な児童が多い。登校班で集団登校をしており、高学年の班長が率先して地域のボランティアや教員に「おはようございます」とあいさつができ、それにならって、低学年の子どもたちもあいさつをすることが習慣化している。

### ■ 活動内容

運営委員会の「あいさつプロジェクトチーム」が考えたプロジェクトの一つで、まず児童集会で、「あいさつをがんばろう」と呼びかける。そして、毎朝“あいさつ隊”が各教室に大きな声であいさつをして回る。

### ■ 取組の参加メンバー

運営委員会の児童を中心とした高学年の児童

運営委員会の担当教員（生徒指導部会で出た教員の意見を、運営委員会に投げかける）

### ■ 成果・効果

高学年が率先して手本を見せることで、自分から大きな声であいさつをしようという機運が、全校でさらに高まってきた。高学年の子どもたちにも、「大きな声で進んでがんばろう！」という自覚が表れ、修学旅行では見学先ですれ違う人々に大きな声であいさつをし続け、たくさんの人にほめられたことが、更なる自信につながっており、本校では「あいさつ日本一！」を自負している。